

令和5年度 自己評価表(中間評価)

鳥取県立米子西高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人財の育成を図る。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進</p>
---------------------------	---	-----------------	---

年 度 当 初				中 間 評 価 結 果 (9 月)			
評価項目	評価の具体項目	現状(R4年度の状況)	目標(R5年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む態度、思考力の育成	授業改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 1年次生では、意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は93%あった。 1年次生では、朝の連絡やその他の情報共有を日常的にClassroomで発信した。 コロナ感染拡大でリモート授業や生徒が対面カリモートを選ぶハイブリット授業を実施したところ、リモート選択者が多かった。 授業での活用頻度はまだ高くないものの、アクティブラーニング推進研究授業で、授業の中でのChromebook活用事例を研修した。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が90%以上になる。 Chromebookを活用した授業が実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの授業利用を効果的に活用するために、教科内の情報共有を推進する。 ハイブリット授業では、教材の持ち帰り、リモート参加者の指定方法、双方向の授業参加などの徹底等ルール作りを行う。 効果的なChromebook活用法を教員間で共有できる機会を作る。 生徒の創造性や論理的思考力を養うための研修会等を開催する。 授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の臨時休校時、全学年でリモート授業を実施することができた。 1・2年次生については、SHR連絡や各教科からの連絡でGoogle classroomの活用が進んでいる。 アクティブラーニング型推進研究授業を、主体的、対話的で深い学び又はクロームブックの活用のいずれかをテーマに計画しており、9月に教科「保健体育」で実施した。 ICT活用に向けて、各学年や各教科で、Classroomを中心に、授業の方法や課題のあり方などについてできることから取り組んでいる。 授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が授業アンケートを実施し、授業改善に努める。 Google classroomの活用について、クラス等の連絡については現在の利用方法を継続する。 今後も各教科のアクティブラーニング型推進研究授業を実施していく。 教材や進度の工夫、放課後講習の時期や教科、放課後の自習スペースの確保、模試の受け方など、授業以外にも学力向上の工夫をしている。 「授業と評価の一体化」できるように、継続的に評価の方法などについて、教科や学力向上委員会などで検討する。 観点別評価(ABC)と評定の関係について、保護者等に対してより理解がすすむ説明方法に改善していく必要がある。
	みらいチャレンジ活動の充実・発展	<ul style="list-style-type: none"> 1年次後半から取り組めるよう年間スケジュールを作成し、グループ活動を中心に他者と意欲的に意見交換するなど、成果を上げた。 2年次生での夏季休業中に事業所訪問、大学研究室訪問を通じて課題を明確にし、2学期の探究活動につなげた。 2年次生のマニュアル『課題研究メソッド』がやや難解だった。 教員の中に自主的なみらいチャレンジ活動充実に向けての研修グループなどもできた。 3年次生では進路志望別に活動し、志望の確認につながるなど成果を上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源を活用した多様な教育活動をとおり、主体的に活動できる力が身につく。 2年次生の学習前と学習後の自己評価の肯定的変化が80%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年次では地域にでかける機会を確保するため授業変更を行い、平日程度校外に出やすい日を作る。 ハイレベル講座(県教委事業)を継続し、プレゼンの効果的な発表方法の習得を図る。 事業所訪問等の経験を通じ、課題解決学習を深掘りするよう担当教員との連携を密にする。 『課題研究メソッド』の改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月、1、3年次生が遠足の日に、2年次生は米子市内でフィールドワークを実施した。 フィールドワークが導入され、島根大学の支援を受けながら研究の深化に努めている。9グループ27名が島根大学研究室訪問し、米子市のイベントにおいても、発表を行った。 夏季休業中に事業所訪問、大学研究室訪問を通じて課題を明確にし、2学期の探究活動につなげた。 『課題研究メソッド』から『探究ナビ』への探究教材変更を進めている。 2年次生みらいチャレンジ活動学習前の調査では、肯定的評価が平均3.52ポイントであった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年次生に対して、学年集会を開催する等、生徒の学ぶ意欲を引き出す取組を実施する。 2年次での探究活動充実を目指し、1年次後半から取り組めるよう年間スケジュールを作成している。 直接体験を得る機会は増えている。1次、2次資料を読み解き、研究に厚みを加えることも意識づけたい。 ハイレベル講座では、プレゼンの大切さを学び、効果的な発表方法を習得させたい。 事業所訪問等の経験を通じて課題を再検討し、生徒の自主性を引き出す活動に繋げる。
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学総合型・学校推薦型選抜の合格者21名。 国公立大学現役合格者が、61名・難関私立大学現役合格者17名であり、目標を達成できた。 総合型・学校推薦型入試の取り組みについて、教員間の意思統一が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学現役合格者60名 難関私立大学現役合格者20名 	<ul style="list-style-type: none"> 小論文指導・面接指導は現行体制を維持し、進路ガイダンスは同様な形式で実施する。 本人にどの入試方法に向いているのかをよく見極めさせ、安易な受験方法にならないように指導していく。 企画推進部と進路指導部・学年団が連携を深めてプレゼンテーションやグループディスカッションに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次生では、進路講演会・社会人講話を通じ、進学に向けた具体的な取り組みや職業の実態を学ぶことができた。 面接週間(6月、9月)を通じて進路指導を行うことができたほか、担任会や進路調整会で研鑽を深められた。 3年担任としては、もう少し進路指導部と連携を密にしたい。また、進路や受験方法が多岐にわたるため、きめ細やかな指導が必要で担任の負担になっている。 3年次生総合的な探究の時間の年間計画の見直しを図り、志望理由書作成指導を効果的に進めている。 1、3年次生進路講演会、3年次生小論文講演会を実施し、生徒の意欲向上の一助とした。また、小論文・面接指導は指導体制を維持しながら、指導している。 鳥取大学と公立鳥取環境大学の進学説明会を大学の教員を本校に招いて開催し、大学での学びから入試対策まで生徒は多くのことを学んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年次生では、卒業生講話を通じて学部・学科への知識を深めるとともに、在学中に取り組むことを考え、行動に繋げる。また、「類型・科目選択」の面接を通じ、継続して進路指導を行う。 3年次生では、放課後講習の時期、科目の変更を検討する。 総合的な探究の時間において、グループディスカッションを取り入れてコミュニケーショントレーニングを行う。
	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 6〜9月の家庭学習時間調査の結果は、1年次97.5→114.6分、2年次120.5→142.2分、3年次127.3→141.2分であった。 成績不振生徒(のべ47名)へ、教科面談シートを使って面談を行った。 学習記録表の集計をもとに、保護者懇談等で客観的な数値に基づき指導でき、学習習慣確立の一助となった。 感染症等の出席停止等によりリズムがつかめない生徒もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習記録」を実施し、学習習慣定着に役立たせる教員の指導が容易に行えるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を課すことだけでなく、生徒が自主的に学習できるような声掛けや働きかけを、学校全体として取り組んでいく。 学習記録などをもとに生徒面談を行い、個々の生徒に合わせた学習指導、進路指導を行う。 学習時間調査は手書きとフォームとの併用を実施する。 日常的に学習に対する強い動機付けを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも日常的に学習記録を行い、生徒の現状把握に努め、6月から9月の学習時間調査では、1日あたり、1年：92分→88分、2年：92分→96分、3年：150分→229分であった。 1年次生では、学習記録を示しながら生徒への指導、保護者への説明を行ったが、昨年度1年次生と比較しても学習時間が少なく、家庭学習時間は十分とは言えなかった。 2年次生では、日々の学習記録と、時期を捉えた声かけで軽重をつけながら、学習時間の確保を呼びかけているが、昨年度比較で減少している。 3年次生では、学習記録の記入は定着している。生徒の学習実態の把握や進路指導に役立っている。 生徒自身での創意工夫ができず、教員からの様々な働きかけがあって、生活や学習のヒントをつかんでいる。自主性を促す第一歩となっている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学習記録や調査・模試の成績を示しながら学習指導を行う。 成績不振者生徒への教科面談シートを活用した面接指導を徹底し、学ぶ意欲が高まるよう支援していく。 記録によって得られた客観的な気づきを生徒とともに共有し、時機を待たない個別の声かけを行いたい。 生徒が主体的に家庭学習できるような取り組みができるか、教科や学力向上委員会で検討する。
2 他者を認め、人とつながる力の育成	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 年間1回までの遅刻回数の生徒は全校で85%であった。 挨拶やルールを遵守するなどの基本的生活習慣が確立している生徒は多く、清掃活動等については概ね良好である。 スマホ依存・ゲーム依存の生徒で学習と生活に支障をきたす生徒もいる。 自己肯定感の高まりを感じる生徒は68%であった。 いじめアンケートを年に2回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合が90%以上。 自己肯定感の高まりを感じる生徒が80%。 いじめを早期発見し、いじめの解消に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> スマホの使用に関し、生活アンケートを通して使用における意識づけにする。 学校生活を送る上で基本的生活習慣の大切さを意識させ、様々な場面において自主的に行動できるように働きかける。 いじめの早期発見に努め、組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月末までの遅刻回数が1回以下の生徒の割合が99.2%であった。(821/828) スカート丈を短くする生徒が見られたものの、指導に従い改善できた。遅刻・欠席数は少なく、基本的生活習慣は概ね良好であった。また、対人関係上の問題には、早期に適切な対応を行った。 1年次生の約40%は、1日のスマホ等の使用時間が2〜3時間となっており、家庭学習時間を上回っている。 いじめアンケートを6月と9月に実施し、早期発見に努めた。 ヘルメット着用について、放課後着用しないで下校する生徒が多い。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 行事における写真撮影時のスマホ使用可の今後の動向を注視したい。 スマホ等の使用について生徒アンケートの結果をまとめ、使用における課題を提示意識づけする機会を持つようにする。 現在の指導を継続しながら、「未然防止」の観点から職員同士の情報共有と、事後には組織対応を素早く行う。 生徒支援部としては、基本的生活習慣の大切さについてさらに実態を解明し、生活上の課題を提示しながら改善を促す機会を持つ。 ヘルメット着用の呼びかけを行い、生徒への啓発を行う。
	部活動の奨励	<ul style="list-style-type: none"> 運動部全国・中国大会以上21競技、文化部全国大会6部門出場。 1年次生は、積極的に部活動に励んでいる生徒が多く見られた一方、早い段階で退部した生徒が多かった。 全体として、コロナの影響もあり十分な活動ができなかった。 学業との両立ができていないような生徒も見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場 人前で発表する経験が得られる。 学校外のコンテスト等への応募者、参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動が継続して実施できるよう支援する。 各部署が連携して、学業と部活動の両立できない生徒の把握と指導に努める。 感染症対策を徹底し、効率よく意欲的な活動ができるように計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国大会に出場した運動部等は6競技(テニス、ボート、空手、アーチェリー、ビームライフル、バレー)、中国大会に出場した運動部等は16競技、全国大会に出場した文化部は5部門(琴曲、吹奏楽、書道、放送、合唱)あった。 部活動については概ね元気に活動している。 学校の規模にしては、全国大会に出場できる部活動が少ない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文武併進の理念のもと、勉強も部活動も頑張るという現在の対応を継続する。
	外部講師の活用	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生や、社会人の講話から、将来を具体的に考えることができたり、人権教育講演会で人権学習を充実させることができた。 社会人講話では、7月に11名の講師で開催した。 コミュニケーショントレーニング、ストレスマネジメントや性に関する指導講演会を実施し、自分自身を振り返る機会を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師から多様な考え方や生き方、最先端の技術等を学ぶことで、社会の一員となる意識が身についたと回答する生徒が70%以上いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学生の講師数を増やし、大学の学びについて情報を得る機会を作る。 講演の目的(ねらい)について、教職員等の共通理解を一層進め、講演後の学習や指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会・コミュニケーショントレーニング・ストレスマネジメントや性に関する指導講演会など、外部講師から刺激を得た。 社会人講話で社会人として必要な資質や考え方を知り、生徒は今後の高校生活を有意義に過ごすヒントが得られた。 講演の目的(ねらい)について、教職員等の共通理解を一層進め、講演後の学習や指導の充実を図る。 外部講師から学ぶことで、社会の一員となる意識が身についたと答える生徒は、98.8%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各講話・講演会を通じ、進路意識や人権意識の高揚に努める。 卒業生講話について、アンケートをもとに内容の更なる改善につとめる。 生徒の現状に応じて、必要な時期に適切な内容の活動が実施できるような講演会等を計画し、アンケートを通じて生徒の振り返りの様子を検証しながらすすめる。
3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習で、職場や大学に直接出向くなど、イベントを企画、運営して効果を上げた。 2年探究において、米子市役所職員のサポートを受けて探究活動を進めることができた。また、事業所訪問として、多くのグループが米子市役所を訪問するなど、連携を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> みらいチャレンジ活動において、年間5回以上の連携を米子市と図り、生徒の地域理解が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の探究活動においても米子市と連携し、探究活動の充実を図る。 今後ともさらに地域の事業への参加の呼びかけを実施し、学校以外での出会いや学びの場を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年探究において、米子市役所職員のサポートを受けて探究活動を進めている。特に、事業所訪問として、多くのグループが米子市役所を訪問するなど、連携を深めている。 米子市の依頼による「歩いて楽しいまちづくりシンポジウム」に参加し、2年次生が交通におけるICT活用についての発表を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の探究活動においても米子市との連携を図り、探究活動の充実を図りたい。 今後とも生徒への情報提供を積極的に行い、地域事業への参加等への参加を呼びかける。
	学校の魅力・特色の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新及び動画掲載が少なく、学校のアピールが少なかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の強化、特に生徒の声や活動を発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「翠燦く」など、学校行事を録画配信できるようにする。 部活動の成績や大会報告を積極的にホームページに掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の体験入学を米子市文化ホールで開催し、510名の中学生が参加し、その内容についても9割以上の参加者が「よかった」と回答した。 翠風祭をはじめとする学校行事や講演会・フィールドワーク等、実施後に速やかにHPに掲載した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも学校行事等の実施の際には積極的にHP掲載する。 録画配信できるよう尽力する。
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> A1採点を取り入れて業務を軽減し、採点後の授業充実に成果を上げている。 時間外勤務超過者は減少してきているが、部活動に由来する超過勤務者が固定化されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外業務時間月45時間、年間360時間を超える勤務者の解消。 	<ul style="list-style-type: none"> A1採点を効果的に活用していく。 月に時間外勤務が30時間を超えることがない部活動計画の提出と実践を求める。 行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生委員会を毎月開催し、業務改善の方策や職員の健康状況把握等につとめ、働きやすい職場作りを目指している。 A1採点はかなり採点業務量を軽減している。 時間外勤務を減らすのは難しいところであるが、年度初めの業務多忙な時期を過ぎ、時間外業務量は減ってきている。 会議の時間設定について、時限内に収めるように努力するとともに割り振り変更等を活用して時間外業務時間を削減している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> A1採点のための作間にならないように心がける。 現状(人員、仕事量が変わらないまま)で時間外勤務を減らすことは、学校全体の質を下げることになるのではないかとという声もあり、引き続き業務の削減、精選等に取り組んでいく必要がある。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]